

平成 29 年 11 月 定例教育委員会々議録

1 日 時 平成 29 年 11 月 27 日 (月) 午後 2 時 30 分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室 102、103

3 出席委員の氏名

教育長	仲野 孝	教育長職務代理者	齋藤 和夫
委員	黒川 優子	委員	中野 信男
委員	秦 久美子		

4 説明のため出席した職員

教育次長	山田 公一	主 幹	長谷川 智
学校教育課長	堀 克彦	子育て支援課長	白井 健次
社会教育課長	宮路 一規		

5 本委員会書記

学校教育課 太田 和行 他2名

6 傍聴人

1人

7 会議に付議した事件

諸報告

- (1) 行事報告及び行事予定
- (2) 教育長報告
- (3) 寄附報告

専決処分の報告について

報告第 13 号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題

協議第 11 号 新規共催・後援申請について

その他

8 閉 会

会議録

別紙のとおり

1. 開 会 宣 言 午後 2 時 30 分～

2. 会議録署名委員の指名 秦 久美子 委 員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定について

〈各課長が報告〉

○委員（黒川 優子）

先月の園だよりの中に燕東幼稚園と小高保育園、燕北幼稚園と藤の曲保育園の年長児が交流会をする予定が書いてあった。どちらもゆくゆくは同じ小学校へ入学するが、他の園同士でも年長児が顔合わせをする機会はあるのか。良いことだと思うので他の園でも開催してほしいと思う。

○子育て支援課長（白井 健次）

他の園で行わない訳ではないが、現状では年間を通じて計画的に開催しているのが上記の園である。

○委員（黒川 優子）

公民館の文化祭が 6 箇所ある。市展の出品作が減少しているが、公民館に出展している方に市展へも出品してもらうように依頼等を行ったりしないのか。

○宮路社会教育課長（宮路 一規）

市展の出品数は年々減ってきている状況にある。市展へ出品される方は、毎年ほぼ決まった方となっており、高齢化に伴い減少しているのが現状である。文化祭と市展に出品される作品はそれぞれ出品者の思いもあり、市展はそれなりの作品レベルを基準に運営している。文化祭に出品された作品が即、市展の作品になるかというところ少し難しい部分もある。

(2) 教育長報告

〈仲野教育長が以下のとおり報告〉

1 はじめに

○ 小池小学校は創立 130 周年、燕中学校と吉田中学校では創立 70 周年の記念行事が行われ、各校とも様々な工夫の中、地域の皆様とともに祝うことができた。

2 市内生徒の活躍

○ 燕中等教育学校の平沢幸芽さん(分水小出身)が 11 月 12 日に東京で開かれた

「少年の主張全国大会」(テーマは「仲間を守る一言」)に関東・甲信越静ブロックの代表として出場し、最優秀賞である内閣総理大臣賞を受賞した。また、中学生や高校生の税に関する作文でも、市内の生徒が受賞している。

- こうした子どもたちは、これまでこども広報の記者や Jack & Betty 教室などに参加した経験をもっており、本市が掲げる「学びの連続性」の中で、様々な事業に挑戦していた子どもたちがその後も意欲的に活躍している。
- 今後とも、ふるさと燕に愛着と誇りをもった児童生徒が 1 人でも多くいろいろな場で輝いてくれることを願うとともに、行政としてこうした取組を続けることの大切さをあらためて実感した。

3 11 月行事予定より

(1) あすチャレ！ School (11/6～8)

- 日本財団パラリンピックサポートセンターが主催する体験型授業を、シドニーオリンピックの車いすバスケット日本代表でキャプテンを務めた根木慎志さんの指導のもと、6日に燕中、7日に吉田小、8日に燕北小で実施した。
- 根木さんからは、この取組の趣旨を教えていただき、子どもたちは「障害に対する考え方が変わった」、「苦手なことは恥ずかしいことではないと思った」、「パラリンピックを応援したくなった」などとの感想があった。

(2) 教育長等教育行政幹部職員セミナー(11/13)

- 独立行政法人教職員支援機構と日本教職員大学院協会が共同で主催する教育行政幹部職員を対象とした標記セミナーに参加した。
- このセミナーは、「多様化する教育課題にどのように対応すべきか」のテーマの元、教育行政や首長部局との連携、教職員の業務改善、学校・家庭・地域との連携等に関する研修である。
- 午前は「教育行政のトップリダーに求められること」と題して、文部科学省視学委員であり元三鷹市教育委員会教育長であられた、貝ノ瀬滋氏の講義があり、午後は「新学習指導要領の円滑な実施に当たって」と題して千葉大学特任教授の天笠茂氏の講義があった。その後は、「新学習指導要領の実施と教育委員会の施策について」のワークショップがあった。

(3) 平成 29 年度燕・弥彦 P T A 連絡協議会(11/18)

- 標記の協議会に先立ち、これまで燕・吉田・分水地区がそれぞれ別に開催していた交流会を合同で行い、本市の人材育成を見据えたキャリア教育の取組を学びの連続性の中で説明するとともに、新しい学習指導要領の主な変更点などについて講話をさせていただいた。
- 代表者会議では、各活動部の取組についての報告と平成 30 年度の役員選出などが行われるとともに、次年度の事務局校が栗生津小学校に決まった。また、教育委員会への要望等についても回答をさせていただいた。

- さらに、来年8月24日(金)、25日(土)に行われる第66回日本PTA全国研究大会新潟大会の第2分科会(テーマは家庭教育、会場は燕三条地場産センター)についての説明と協力依頼があった。
- (4) 吉田高校と分水高校の合同学校説明会(11/18)
 - 燕市と弥彦村が県教育委員会に提出した特色化の提案書に係る取組として、両校の生徒が企画作製したリーフレットを使用し、説明会を開催した。
 - 地元中学生とその保護者や学校関係者およそ120人の参加があり、各高校の生徒が自校のPRをするとともに、これから各自治体を中心となり、市村による出前講座や地元企業などが参画する協議会の設立について説明した。
- (5) 第10回燕市スポーツ少年団大運動会(11/19)
 - 本市のスポーツ少年団は、45団体で約1,340人の団員と約260人の指導者で組織されており、当日は様々な大会が重なる中、11団体およそ190人の団員が参加した。
 - 運動会では、違う競技スポーツの仲間が4つのチームに分かれ、スポーツに汗を流す友人を互いに応援しながら、大玉送りやリレーなどを行った。
- (6) 第2回 Good Job つばめ推進事業実行委員会(11/21)
 - 前期に実施した職場体験を振り返り、これまでの成果と課題を踏まえ、来年3月の実施に向けた協議をさせていただいた。
 - 受入企業担当者の主な評価は以下のとおり。
 - ・ 作業ではとても意欲的に活動していた。話を聞く姿勢が素晴らしい。
 - ・ 清潔感のある服装で好感が持て、日を追うごとに良くなっていった。
 - ・ もう少し元気が欲しい。自ら進んでの挨拶が足りないと感じた。
 - ・ 仕事の仕方を注意したら素直な反応がなかった。
 - 生徒の主な感想は以下のとおり。
 - ・ 働くことの大変さがわかり、親への対応が変わった。
 - ・ 周りに対して気を配れるようになった。
 - 後期や次年度以降に向けた課題としては、学校での事前指導を一層充実させ、生徒には目標や目的を持って職場体験に参加してもらうことである。
- (7) 平成29年度第2回教育支援委員会(11/21)
 - H30年度に小中学校などに入学予定の児童生徒が、入学後に適切な支援が行われるよう、専門の医師や特別支援学校の教員、各校の特別支援コーディネーターや健康づくり課及び社会福祉課の職員を交えて委員会を実施した。
 - 会議では、7月の第1回教育支援委員会で各園や学校から報告をいただき、8月に専門委員が園児や児童生徒の様子を直接見て、さらに就学前健康診断の学習適応検査結果に基づいた適切な支援の検討や保護者との面談も行い、就学に係る一定の方向性を出すことができたものと考えている。

(3) 寄附報告

2 件の寄附報告について
〈堀学校教育課長が報告〉

4. 専決処分の報告について

報告第 13 号 共催・後援の教育長専決報告について

4 件の共催・後援について

〈No.1、4 堀学校教育課長が説明〉

〈No.2 宮路学校教育課長が説明〉

〈No.3 白井子育て支援課長が説明〉

5. 協議題

協議第 11 号 新規共催・後援申請について

1 件の後援について

〈堀学校教育課長が説明〉

審議の結果、全員異議なく承認された。

6. その他

7. 閉 会 午後 3 時 10 分

教 育 長 仲 野 孝

会 議 録 署 名 委 員 秦 久 美 子

会 議 録 調 整 者 竹 田 亮 子
